

自閉症総合援助センター 萌葱の郷

ASSIST



～芽吹く未来へ～



なかよしひろば

◆社会福祉法人 萌葱の郷 こども発達・子育て支援センター「なかよしひろば」

平成27年6月に開所した「なかよしひろば」は、個々の発達段階に応じた関わりを配慮することで、対人関係を中心とする育ちを支援する児童発達支援センターと子育て相談や子育て家庭の支援を行う子育て支援センターを併設した施設です。

地域の子育て家庭が安心して暮らせるよう、子ども一人ひとりの特性に応じた発達支援、合理的配慮に基づいた環境設定の推進を目指し、地域と子育てに関わる諸機関が連携することを支援しています。

2015.10.1 発行

VOL.9

萌葱の郷のめざすもの

理事長 五十嵐 康郎

(全国自閉症者施設協議会会長・日本自閉症協会副会長)



自閉症を中心とする発達障がいのある人への早期療育から、療育支援、生活支援、就労支援、在宅支援、高齢期、看取りまでのライフステージを支える支援と、相談、普及、啓発、スーパーバイザーの養成等の機能を総合的に提供する自閉症総合援助センター構想が実を結びつつあります。

豊後大野市から、平成24年4月に「いぬかい保育園」の運営を引き継ぎ、平成27年に隣接する旧犬飼保健センター、旧犬飼給食センター両施設の譲渡を受けました。

平成27年4月に「いぬかい保育園」を幼保連携型の「いぬかいこども園」に組織変更し、旧犬飼保健センターは、平成27年6月に早期療育・子育て支援の拠点施設としての機能を併せ持つ、こども発達・子育て支援センター「なかよしひろば」としてスタートしたことにより、未就学児童を対象にした教育福祉サービスを同一敷地内で充実させることができました。

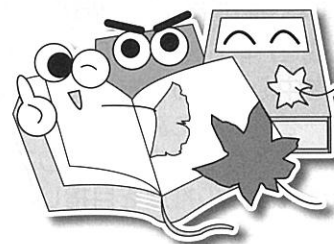
今後は、旧犬飼給食センターを地域に開かれた研修・交流センターとして改修し、大分県発達障がい者支援センター「ECOAL」事務所を隣接地に移設し、児童精神科医師を始めとする医療スタッフを配置し、医学的診断や評価に基づく相談や個別療育、集団療育を行うとともに病児保育に取り組む体制を整備する予定です。

その結果、保育、幼児教育、子育て支援、早期療育、相談・普及啓発、研修機能を総合的に提供し、医療スタッフを配置することで、高齢化に伴う医療のニーズ増大にも対応します。

高齢期を迎えることで、身体的な障がいや機能低下をきたしても安心・安全な暮らしを提供するためにバリアフリーのケアホームの整備も予定しています。

自閉症支援には支援者の資質向上が最も重要な課題と捉え、研修委員会を設けて、全体研修、新人研修、中堅研修、幹部研修等の各階層別の法人内研修を実施するとともに、外部研修やスーパーバイザー養成研修等にも積極的に職員を派遣し、資質向上を図るとともに、資格取得の奨励にも努めていますが、旧犬飼給食センター跡に研修・交流センターを開設することで、法人内外に向けて、さらなる研修機会の提供と研修内容の充実を図ります。

当法人の「自閉症療育のコペルニクスの転回」は、成長・発達や行動障がいを利用者の課題として捉えるのではなく、特定の理論や技法に囚われず、支援者の課題とし、自らの能力・技量を磨き続けることで、無限の可能性を追求するものです。謙虚に多様な実践や理念に学ぶことを通して、さらなる自閉症総合援助センターの機能の拡充と支援者の資質向上に努めてまいります。



ECOAL 支所について

ECOAL支所は、大分県発達障がい者支援センターECOALによる支援が行き届きにくい地域において発達障がい児・者の療育・相談支援を図ることを目的として平成26年5月7日に設置されました。

支所は療育・相談支援の他にも、大分県発達障がい者支援専門員（以下SVと表記）の事務局や保育コーディネーター、教育機関などとの連携拠点の役割を担っており、現在は、中部圏域事務局として「こども発達支援センターもも」、豊肥圏域事務局として「こども発達・才能支援センターなごみ」、西部圏域事務局として「こども発達支援センターあ〜く」が運用を行っています。

これまでの支所の会議では、SVと保育コーディネーターのマッチングや巡回支援専門員整備事業におけるSV派遣のコーディネート等について話し合いが行われました。

今後は巡回支援を各市町村に広げていくために派遣コーディネートの実績をつくり、徐々に支所の数を増やしていく中で児童や成人、就労など各部門がそれぞれの強みを発揮して相談支援にあたるよう取り組みを進めていく予定です。

大分県発達障がい支援体制(圏域支援ネットワーク)

圏域支所における6つの役割

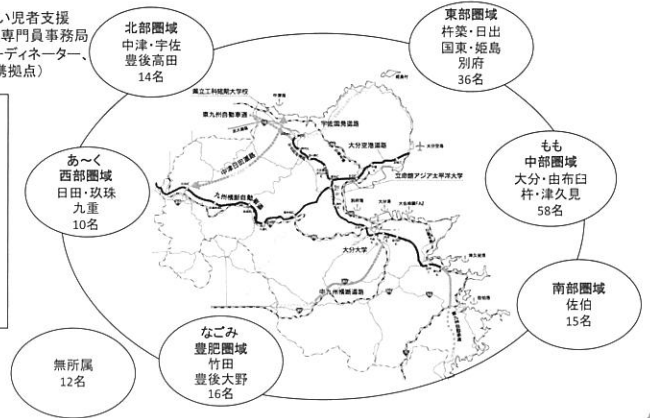
- (ECOALの機能を圏域にて補完する)
- ①発達障がい児者への療育・相談支援
 - ②発達障がい児者の家族支援
 - ③発達支援登録証の管理
 - ④災害時における発達障がい児者支援
 - ⑤大分県発達障がい者支援専門員事務局
 - ⑥その他連携拠点(保育コーディネーター、教育、就労関係機関との連携拠点)

平成27年度の体制
大分県発達障がい者支援専門員:161名
ECOALの圏域支所:3ヶ所



大分県発達障がい者支援専門員養成研修修了者

平成21年度	15名
平成22年度	31名
平成23年度	33名
平成24年度	26名
平成25年度	18名
平成26年度	19名
平成27年度	19名
合計	161名



【わたしの療育論】

「利用者を理解するということ」

どこの里いぬかい 主任支援員 工藤 貴志

私は平成22年に当法人に入社し、4年間のめづき園での支援員勤務を経て、現在はこの里いぬかいに所属、生活介護と就労継続支援B型のサービスマッチングに携わっています。入社当初、それまで障がい者支援はおろか福祉業界の経験のなかつた自分にとってめづき園でのスタートは驚きの連続で、利用者の行動原理や思考をどう理解したらよいか分からず、利用者の観点から自分の支援は正しく行えているのか？と常に不安が付きまといました。利用者の感情や思いをそっくり共有できれば苦労しないのに、と取り留めのないことを考えてしまうこともありました。当然そんなことは不可能で、壁にぶつかる日々を重ねる事になりましたが、幸い良い上司、先輩方々のご指導を頂き、少しずつ利用者のことが分かるようになって、それまで感じていた不安や焦りは徐々に薄らぎ、自分の支援に手ごたえを感じることも増えていきました。

そうした園での経験を経て現在に至っているわけですが、まだまだ経験の浅い自分の中には確固たる『療育論』など胸を張って人に言えるほどのものはありません。ただ療育に携わる支援者として自身で感じていることがあります。それは『利用者を理解しようとする姿勢が利用者成長を促す』ということだと思います。利用者理解を進めながら支援を展開するわけですから、支援員なら当たり前の心構えだろうと思われるかも知れませんが、私は支援力に差が出ると思えば、そこに大きな要因があるのではないだろうかと考えています。コミュニケーションのとりにくい利用者の発するメッセージを、得た情報を支援に活かすための発想力や実行力、支援の結果を検証し改める謙虚さ、粘り強さは、利用者理解の姿勢が強いほど高められ、結果として支援者自身の成長につながるものであると考えられるからです。私たちが利用者に対応する時、『問題行動が起きてから利用者側を動かして修正する』というスタンスに偏れば支援の形が限定的になり、拡がりがないように感じます。一方で、支援者側が主体的に問題行動に至る経過や原因となる事柄を分析し、事前にそれらを取り除く若しくは問題に至る経過を辿っても途中の段階で有効に働きかけることで行動を未然に防ぐというスタンスであれば、支援の幅はぐんと拡がり、支援者側の果たすべき役割もより大きなものになると思われます。後者は五十嵐園長の掲げる『コベルク・グリスの転回』に通ずるものであると思いますが、利用者を表面的に捉えるだけではこれを十分に実践することはできません。その過程の中で支援者側が利用者側を多面的に捉え、表出している部分までいかに理解を深めたいかがポイントになるのだらうと思います。

利用者理解しようとすることはベテラン、新人職員を問わず個々の心持ち次第で何時でも、どんなペースでも、どんなアプローチでも取り組んでいけると思っています。意識的に取り組めば利用者側と関わるなかで、失敗や予期せぬところから見えてくる利用者の新たな一面があるかも知れませんが、その新たな一面が行き詰った支援の新たな足がかりになるかも知れません。あくまで私的な見解を述べさせていただきますが、利用者本位の支援が叫ばれる中で、支援員として利用者の方を向き合っているだけで頂ければ幸いです。



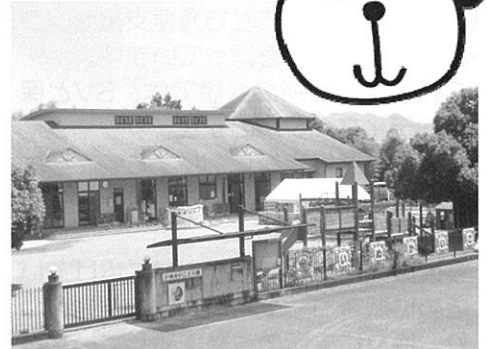
社会福祉法人 萌葱の郷 豊後大野子育て総合支援センター

豊後大野子育て総合支援センターでは、幼保連携型認定こども園（幼稚園、保育園）、子育て支援センター、児童発達支援センターを同一敷地内にて一体的に運営することにより、その地域に暮らしているすべての乳幼児と家族に対して、乳幼児期から小学校への接続を連続的、且つ、子ども一人ひとりの月齢だけではなく、生活環境や気質的な特性を理解した上で、教育及び保育を一体的に進めることを目指しています。

いぬかいこども園
認定こども園（幼保連携型）

平成 24 年度より民間移管を受け、犬飼保育園を引き継いで運営しています。平成 27 年度より認定こども園（幼保連携型）へと移行しました。未来を担う子どもたちに向けて、いろいろな考えや価値観に柔軟に対応することができる大人になることを目指した「人権教育」を重んじた教育、保育をしています。

運営主体	社会福祉法人 萌葱の郷
住 所	大分県豊後大野市犬飼町田原1419番地
連絡先	TEL 097-578-0706 FAX 097-578-0710
定 員	70名（1号10名／2-3号60名）
職 員	園長・副園長・主幹保育教諭・保育教諭 防災士・養護教諭・栄養士・調理師
保育時間	月～土曜日 7:00～18:00（延長19:00）
事業内容	通常保育及び教育・一時保育・延長保育 特別支援保育・子育て支援・運動教室
設 備	乳児室・ほふく室・保育室・遊戯室・倉庫・調理室・医務室 沐浴室・事務室・休憩室・多目的ホール・相談室・屋外プール 園庭・テラス・砂場・ブランコ・鉄棒・花壇・設備遊具（大・小）
そ の 他	アレルギー対応・除去食・代替食・保護者会 園庭開放・地域交流
嘱 託 医	児玉医院
嘱託歯科医	杉山歯科医院
嘱託薬剤師	首藤薬局



ゆうゆうキッズ
いぬかい子育て支援センター

いぬかい子育て支援センターゆうゆうキッズは、0～6歳の子どもたちが、お母さんやお父さん、おばあちゃんやおじいちゃんと一緒に楽しく安心して遊べる場所です。

◆連絡先（なかよしひろばに併設しています）
TEL：097-586-8811 / FAX：097-586-8818
Eメール：youyoukids@moeginosato.net



◆開始時間
月～金曜日 / 9:30～14:30
（面接・電話相談 / 9:00～14:00）

◆ゆうゆうキッズ活動内容

月	園庭開放 9:30～11:00
火	おしゃべり広場（第1週の火曜日） 子育て広場 10:00～11:30
水	オープンスペース 9:30～14:30
木	園庭開放 9:30～11:00
金	オープンスペース 9:30～14:30

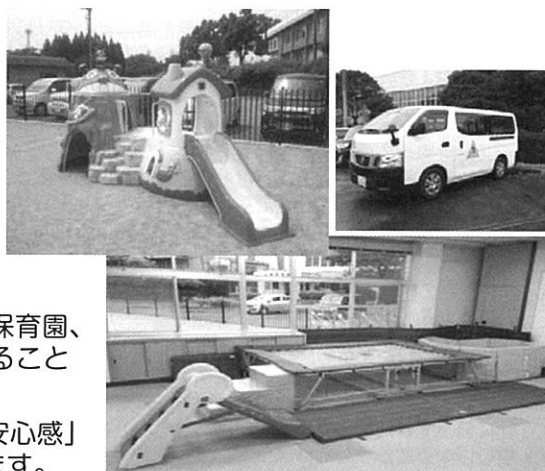
こども発達・子育て支援センター なかよしひろば

☆なかよしひろばの理念☆

地域の子育て家庭が安心して暮らせるよう、子ども一人ひとりの特性に応じた発達支援、合理的配慮に基づいた環境設定の推進などに努め、個々の発達段階に応じた関わりを配慮することで、対人関係を中心とした育ちを支援します。

☆支援方針☆

- ① 発達支援……人との信頼関係を軸にしながら一人ひとりの発達段階に応じた育ちを支援します。
- ② 才能支援……様々な経験が得られる機会をつくることで、一人ひとりの可能性を引き出したり、伸ばしたりしながら自己表現力や有用感の育ちを支援します。
- ③ 家庭援助……子育てについての相談や学習会を通して、お互いに子どもへの理解を深めながら育ちと暮らしを支えます。
- ④ 地域援助……ボランティアの要請や、相談会・研修会への協力、保育園、幼稚園、学校、保健所などの関係諸機関と連携することで子どもの育ちと暮らしを支えます。
- ⑤ 心のケア……関係性の視点から子どもの心身の状態を把握し、「安心感」を軸とするメンタルケアを施すことで発達を促します。

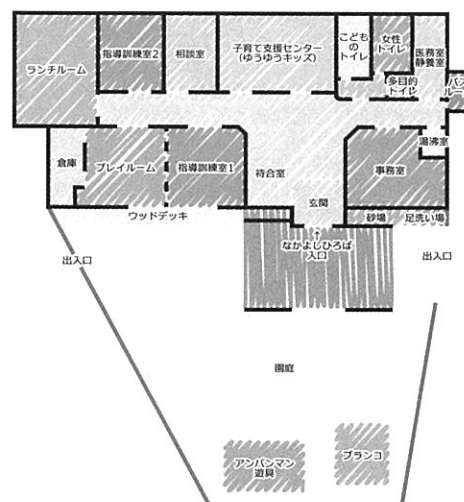


☆なかよしひろばの1日のスケジュール☆

時間	活動	活動内容
9:30	開園・シール貼り・自由 ～トイレ～	・トランポリン・マットブランコ・三輪車等で体を使って遊びます。 ・体を使って遊んだあとは、ゆっくり好きなおもちゃ等で遊びます。
11:00	導入あそび・おあつまり 今日の活動	・体操（いないいないばあ・わあお等）・汽車ポッポ（音楽に合わせて電車に乗って走る）等、導入の音楽遊びをします。 ・おあつまりでは、コロコロボール・数字のうた等の絵カード遊びをしたり、絵本などを通してコミュニケーションを図ります。
11:40	給食・片付け・自由遊び ～トイレ～	・「おはようのうた」や一人ひとりの名前呼びをしてごあいさつします。
13:30	帰りの会	・「今日の活動」では、季節の製作遊びやリズム遊び、感覚遊び、運動ごっこ遊び、からだふれあい遊び、戸外遊びなどを通して指導員のみならず保護者やお友達との関係性を育みます。
14:00	個別相談・療育活動	
15:30	閉園	



運営主体	社会福祉法人 萌葱の郷
住所	大分県豊後大野市犬飼町田原1 4 1 4 - 1
連絡先	TEL 097-586-8811 FAX 097-586-8818
定員	20名
職員	センター長・管理者・児童発達支援管理責任者 児童指導員・保育士・臨床心理士・栄養士 機能訓練担当職員
開所時間	月～金曜日 9:30～15:30
併設施設	いぬかい子育て支援センター
併設施設	プレイルーム・指導訓練室①②・調理室・医務室・静養室・浴室 便所・事務室・洗面所・倉庫・相談室・子育て支援センター・園庭 テラス・砂場・ブランコ・花壇・設備遊具
その他	アレルギー対応・除去食・代替食・保護者会 こども園・保育園交流・地域交流
嘱託医	児玉医院



conversation with 相談支援事業所プラス 支援係長

A：今日はお願いします。では早速ですが、田島さんと福祉の出会いを教えてください。

田：もともと保育士になりたくて、資格を取る為に進学をしたんだけど、2年生の夏くらいまでどこに就職するか全然決めてなくて…また大学に行きなোসかとか考えていたんですけど、教授に相談したら障がい児の施設を紹介されて、入社試験を受けて就職が決まったという感じで、就職してから初めて障がいという分野に触れていきました。

A：障がいに偏見とかなかったですか？

田：ありましたよ～初めててんかん発作見た時はビックリしすぎて「なんでこの人震えてるの!？」って。何もできなくて「どうして?何で?」って。だから今振り返ればほんと「未熟だったな～」って思うんだけど。やっぱり「知らない」ってことが偏見なんだな、と。今は知識をたくさん得て「違い」は分かるけど、その「違い」がマイナスとは思っていない。「違い」はプラスにも転じることもあるし、マイナスに転じることもあるけど、その「違い」を偏見とは思っていない。人と関わるの好きだし、しゃべるのも苦手じゃないし。恐さはあったけど、何とかなるんじゃないか、この世界でも生きていけるんじゃないかとは思った。

A：自閉症との出会いはいつですか？また、萌葱の郷に来たきっかけは何ですか？

田：最初に就職した児童の施設にも自閉症の人はいたんですが、本当に深く自閉症の方と関わったのは萌葱の郷に入社してからになると思います。もともと同じ町内出身なので、地域の一助になるために地元に戻ってきたいという思いがあったので遅かれ早かれこういう事にはなるだろうなとは思っていました。

A：実際に働いてみて理想と現実の違いってあると思うんですが、そういうのにぶつかったことはありますか？

田：初めて働いた施設では1年間に何度も園長室に呼ばれて…支援に対してテクニックもない。技術もない。療育方法も分からない。あの頃は人と人の関わり方を全然わかっていなかったから、かなり苦労しましたね。

A：園長室に何度も？

田：うん。「君その関わり方は厳しいんじゃないの?」とか。僕だけじゃなかったんだけど、会議とかで意見出し合ったりフランクに話してたかな。利用者用に意見箱があって、意見箱に「田島先生厳しいです!」とか書かれてたり(笑)だから初めの頃はすごく下手くそだったね、支援が。

A：大変だったんですね～。では、今までで嬉しかったことはなんですか？

田：この福祉の仕事を始めて2年目頃だったかな?場面緘黙の方を担当してて、その人は虐待で失語症っていうか、人としゃべれない、コミュニケーションが取れない、人と対面すると緊張して声が出ない方だったんですね。僕の福祉のきっかけの1つでもあるんですけど。例えば、「しゃべらない=ストレス」だと思ってたんですけど、僕は。人に気持ちを伝えれないってストレスだと思ってた。だからこの人には「しゃべれ、しゃべれ」って迫ってた。「おはようは?」とか「ごはん欲しいって言わないの?」とか「爪切ってくださいって言いにおいで」とか。しゃべることを結構求めてたんだけど。ゆっくり関わっていくと彼にとってはしゃべることがストレスなんだなって気付いた時があって、場面緘黙はこの方にとってはストレスじゃないというか、この人が望んでしているんだな。と思った瞬間に「ああ、支援の仕方を間違っていたんだな」というのに気付いたのが1つのきっかけ。それから、2本指を立てて指さししながら「YES」「NO」から始めて、例えば衣類購入や映画見に行ったりの外出支援で提示して選んでもらったり。別にしゃべらなくてもコミュニケーションってたくさん取れるんだなってことに気付いた。この人はしゃべらなくても生きていけるんだと思って。手話だってあるし、筆談だってある。そこから僕は「しゃべれ」ってことを求めなくなった。それから2年くらい経ってからかな、徐々に向こうから笑顔で接してくるようになってきて。ある日、朝出勤したらその人が事務室までトントンって来て「つめ」って言うんですよ。「爪切って欲しい」ってことなんですよ、見たら爪伸びてたし。(あ!しゃべれるんや!)と思ったんだけど、僕その場では「爪ね、分かったよ」って穏やかに対応したんだけど、心の中ではヨッシャー!ですよ。この人は、場面緘黙を一時的な環境だけど、克服すること



話し手：田島 良平 (=田)
聞き手：A

ができたんだなと思って。これが僕の療育のきっかけで、「自分の正しいと思っていることが、その人にとっては正しいことじゃない。僕らが思っている常識は彼らにとっては、そうでなくて彼らの常識をちゃんと理解しないとイケない」というのを学びました。

A：すごく素敵な経験ですね。仕事をすすんで療育も大事だと思いますが、職員間で気をつけていることがありますか？

田：僕はめぶき園ってトップクラスの施設だと思って、自信をもってこの施設を紹介できるんですけどね。単純に仕事なので、「定時になったから帰ればいいや」じゃなくて、自分の時間を費やして利用者に関わったり、必要があれば休みの日に出勤して来たり、夜遅くまで残ったりしながら療育支援をしているし。パニックになった時に行動障害が激しくて危険を伴うこともあるけど、そこに女性職員も積極的に走って対応に向かって、そんな積極性のある職員がたくさんいる職場って、やっぱりチームワークがすごくいいんだと思うんですよ。そういう心持ちとか支援に向かう体制っていうのはすごくいいモノを持っていると思うし、利用者が自分から動きたくなくなるようにだったり、見守り方の工夫だったり、チャレンジしてみても、やってみてダメだったらまたみんなで話し合っ、それを試行錯誤していくことが療育の1つだから、そういうのができているこの施設的环境はすごくいいと思います。

A：そのチームワークはなぜあるんだと思いますか？

田：やっぱりそれは五十嵐理事長の存在が大きいと思いますね。僕が就職前に聞いた話だったり論文だったりも素晴らしかったけど、ミーティングに毎回入る。職員会議に毎回参加する。ってなかなかできることじゃないと思うんです。自ら発信してくれるし、認めてくれるし叱ってもくれる。だからこそチャレンジしてみようとも思うのは理事長の心の広さだったり、僕らを次のステージへと引っ張って行こうと意識してくれているからだと思うので、やっぱり理事長の存在ってこのいうのは明らかに大きいですね。

A：田島さんは本を読んだり、映画を見たりたくさんしていますが、自閉症や発達障がいモチーフになった作品でおもしろかった作品がありますか？

田：う～ん、やっぱりここ最近で1番刺激受けたのは、東田直樹さんかな。テレビをリアルタイムで見たんだけど、あれはやっぱりすごかったね。やっぱり当事者からの言葉じゃないと分からないことってあるけど、「ああ、僕らの支援って間違っていないんだな」っていうのは感じ取れた。もっと他にもいろいろあるんだけど咄嗟に言われると出てこないね～(笑)家の録画のやつ確認しないと(笑)

A：ですよ(笑)いろいろ見るイメージなのに。これからの展望について。何か野望とかありますか？

田：萌葱の郷って職員個々の支援力もあるんだけど、やっぱり理事長が四半世紀自閉症療育に携わってきて培ってきたものを、僕らが引き継いでいっている段階なので、やっぱり僕はその思いを汲みたいし、次へのステップへ進みたいときに理事長はじめたくさんの方にお世話になったから、その恩をちゃんと返したいって思いもあって。萌葱の郷の法人の1人として、できることは何かやっていきたい。これまで現場で学んできた経験を今の相談業務にもしっかりと活かし、出来る限りのことをやって、今できる仕事を全力でやるだけです。はい。今を生きてる。もちろん将来的な展望もあるけどね。

A：ありがとうございました。お疲れさまでした。

2014年度 会計処理等取扱指導指針

<http://www.moeginosato.net/>

資産の部		負債の部	
流動資産	236,205,241円	流動負債	15,071,287円
固定資産	511,755,776円	固定負債	27,423,120円
		負債の部合計	42,494,407円
		純資産の部	
		基本金	56,415,470円
		国庫補助金等特別積立金	117,268,721円
		その他の積立金	0円
		次期繰越活動収支差額	531,782,419円
		純資産の部合計	705,466,610円
資産の部合計	747,961,017円	負債及び純資産	747,961,017円

貸借対照表

勘定科目		決算
就労事業による収支	収 入	10,314,494円
	支 出	5,191,907円
	就労事業資金収支差額	5,122,587円
事業活動による収支	収 入	499,103,658円
	支 出	443,350,296円
	事業活動資金収支差額	55,753,362円
施設整備等による収支	収 入	0円
	支 出	20,507,300円
	施設整備資金収支差額	△20,507,300円
当期資金収支差額合計		40,368,649円
前期末支払資金残高		180,666,712円
当期末支払資金残高		221,035,361円

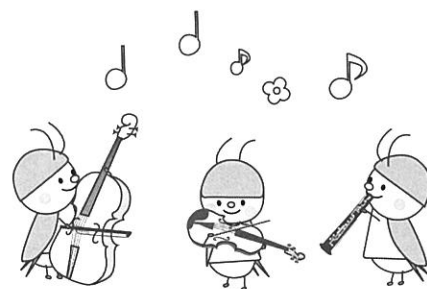
資金収支計算書 ※「指針収支計算書」

勘定科目		決算
就労活動収入計		10,314,494円
就労活動支出計		5,169,452円
就労活動収支差額		5,145,042円
事業活動収入計		508,574,458円
事業活動支出計		471,388,835円
事業活動収支差額		37,185,623円
事業活動外収入計		26,554円
事業活動外支出計		0円
事業活動外収支差額		26,554円
経常収支差額		37,212,177円
特別収入計		0円
特別支出計		3,559,000円
特別収支差額		△3,559,000円
当期活動収支差額		38,798,219円
前期繰越活動収支差額		492,984,200円
当期末繰越活動収支差額		531,782,419円
その他の積立金取崩額		0円
その他の積立金積立額		0円
次期繰越活動収支差額		531,782,419円

事業活動計算書

勘定科目		決算		
資産の部	流動資産	現金預金	156,910,726円	
		未収金	72,352,976円	
		商品・製品	98,593円	
		立替金	1,342,631円	
		前払金	183,878円	
		短期貸付金	0円	
		その他の流動資産	5,316,437円	
		合 計	236,205,241円	
	固定資産	基本財産	建 物	284,609,530円
			土 地	44,891,820円
預 金			0円	
その他の基本財産			0円	
合 計		329,501,350円		
その他		建 物	74,918,819円	
		構 築 物	28,761,835円	
		車両運搬具	9,735,552円	
		器具および備品	11,120,144円	
		土 地	16,745,807円	
	機械・装置	5,026,629円		
	施設・設備等積立金	0円		
	退職共済預け金	27,423,120円		
	ソフトウェア	0円		
	敷金・保証金等預け金	293,640円		
	その他の固定資産	8,228,880円		
	合 計	182,254,426円		
資産の部合計		747,961,017円		
負債の部	流動負債	短期運営資金借入金	0円	
		未払金	13,583,068円	
		預り金	8,072円	
		その他の流動負債	1,480,147円	
		合 計	15,071,287円	
	固定負債	長期設備等借入金	0円	
		退職給与引当金	27,423,120円	
		その他の固定負債	0円	
		合 計	27,423,120円	
		負債の部合計		42,494,407円

財産目録



豊後大野市



障害者支援施設 めぶき園 (法人本部)
 大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10
 TEL097-578-0818
 FAX097-578-0819
 mebukien@moeginosato.net

ホームヘルプサービスセンター らすかる
 大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10
 TEL097-578-1888
 FAX097-578-0819
 rasukaru@moeginosato.net

相談支援事業所 プラス
 大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10
 TEL097-578-0818
 FAX097-578-0819



子ども発達・才能支援センター なごみ
 大分県豊後大野市犬飼町大寒2149番地1
 TEL097-586-8070
 FAX097-586-8071
 nagomi@moeginosato.net

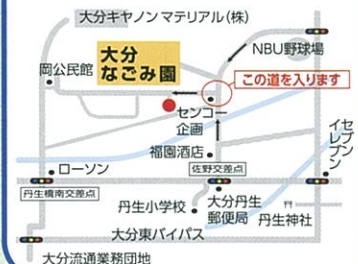


障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい
 大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地8
 TEL097-578-0077
 FAX097-578-1226
 donko@moeginosato.net

大分市



子ども発達支援センター 大分なごみ園
 大分県大分市丹生210-3
 TEL097-524-3636
 FAX097-524-3637
 oita.nagomien@gmail.com



萌葱の郷 ロードマップ



いぬかい子ども園
 大分県豊後大野市犬飼町田原1419番地
 TEL097-578-0706
 FAX097-578-0710
 inukai-hoikuen@moeginosato.net



子ども発達・子育て支援センター なかよしひろば
 いぬかい子育て支援センターゆうゆうキッズ (なかよしひろば内)
 大分県豊後大野市犬飼町田原1414番地1
 TEL097-586-8811
 FAX097-586-8818
 nakayoshi@moeginosato.net



ケアホーム かわしま
 大分県豊後大野市犬飼町下津尾3709-8
 TEL097-578-0885



大分県発達障がい者支援センター ECOAL
 大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地8
 TEL097-586-8080
 FAX097-586-8181
 ecoal@moeginosato.net

◆協力者御芳名

伊美 信長様
 柿坂 重治様



編集 後記

今年度6月新たにスタートした、「なかよしひろば」。年少・年中児を対象とした小さな子どもたちが、「なかよし」に遊ぶ姿に癒されております。
 新職員も入り、慌しく毎日が過ぎて行く中で、今年度も残すところ半年をきりました。後半も気合いを入れて頑張っていきたいと思ひます。

